

この笑顔でまた会おう

草野・飯樋幼稚園 修了式



【特集】

避難指示解除 ただいま、ふるさと

ただいま、ふるさと



大久保・外内地区の空撮

平成29年3月31日午前0時 飯舘村の避難指示が解除されました

帰還困難区域となっている長泥地区を除く

3月31日の午前0時、帰還困難区域の長泥地区を残して、村の避難指示が解除されました。同様に、他市町村の避難指示区域でも、帰還困難区域を除いて、4月1日までに、避難指示が順次解除されました。長い長い避難が徐々に収束し、新しい生活への移行が進んでいきますが、その道のりにも、また時間がかかります。避難指示が解除

されたとはいえ、決して元通りではない状況の中で、暮らしを再建していかねればならないからです。村は、これまで進めてきた復興事業を足掛かりに、一つひとつの課題を着実に乗り越えながら、新しい村づくりを進めていきます。村民の皆さんの暮らしの再建、なりわいや生きがいを支援する事業にも、力を注いでいきます。



渋谷公園通商店街から村に贈られ、村民の帰村を待っていた忠犬八子公の像。3月31日には避難指示解除の記念式典が行われた交流センターで出席者を迎えました。(写真は寄贈を受けた平成25年のようす)

いいたて四季彩景 ● 雪の花

3月27日の村は雪の花ざかり。本物の花の季節もあと少しですね。



CONTENTS 目次

- 3 特集 避難指示解除をこえて
- 6 特集「大切なもの」写真コンテスト
- 8 復興を歩む「避難指示解除」
- 10 平成29年度予算と重点事業
- 14 議会報告 3月議会定例会
- 18 住民意向調査の結果報告
- 20 平成29年度の職員配置
- 22 いいたて便り
- 24 つながるアルバム
- 26 おしらせ/入札結果
- 28 インタビュー/相談室/こころのほけっと/ひとのうごき
- 30 フォトストーリー「修了式・卒業式」
- 32 ホープス/編集後記

草野・飯樋幼稚園の修了式。修了児の成長した姿を、保護者の皆さんが、涙が浮かべて見守りました。P 30もご覧ください。



●表紙のおはなし●

避難の6年を忘れない

平成23年

3月11日、東日本大震災が発生。村は浜通り地方の津波被災者を受け入れ、炊き出しなどの支援にあたる。

4月22日、当初の政府方針が変更され、飯館村が計画的避難区域に指定される。

6月22日、村民の避難がほぼ完了したことを受けて、村役場が福島市飯野町に機能移転。

平成24年

新年度から幼稚園と小学校が、2学期から中学校が、仮設園舎・校舎での園生活・学校生活を開始。

9月、幼稚園・小学校が2年ぶりの運動会を避難先で開催。10月には村の文化祭も福島市内で復活開催。

平成25年

5月、秋篠宮殿下・紀子妃殿下が中学校をご訪問。

7月、天皇・皇后両陛下がご来村。仮設小学校、菊池製作所などを訪問される。

平成26年

9月、福島市飯野町に村営復興公営住宅が完成し、入居が始まる。

平成27年

5月、村の写真や資料をインターネット上で閲覧できる「飯館村デジタルアーカイブ」の公開が始まる。

7月、天皇・皇后両陛下が行幸啓で福島市をご訪問。県営復興公営住宅で村民と懇談される。

平成28年

6月15日、村の避難指示が帰還困難区域を除き平成29年3月31日に解除されると決まる。7月1日から長期宿泊（準備宿泊）も始まる。

7月1日、福島市飯野町に支所を残し、村役場機能を本庁に戻す。

8月、旧公民館跡地に交流センター「ふれ愛館」がオープン。

被災証明を発行する役場窓口
(平成23年5月)



苦すぎた涙も 心に染みだした励ましも
出会いも 別れも 今日につながっている

スクリーニング検査の実施
(平成23年3月)



東京電力による住民説明会
(平成23年4月)



日常を断絶した
避難の苦しみ

平成23年、東北と関東地方に大きな爪あとを残した東日本大震災。その衝撃の中で原子力発電所の事故は起きました。風で放射性物質が運ばれた村は、4月に計画的避難区域に指定され、私たちは、それまでの暮らしを断ち切るようにして、避難しなければなりません。

手探りで始まった国の除染事業は、思い通りには進まず、工程表は何度も修正されました。翌年には、空間線量率による避難区域の見直しが行われ、避難は長期化。村は国に、その時々々の村民の実情を伝え、除染方法の改善や施策の要望を続けました。

避難生活においては、各地域で多大なご協力をいただきました。また、全国各地、世界各地から、心のこもったご支援をいただきました。さらには、村民同士の支え合いも、力を発揮しました。そうして、6年間の避難生活が続いてきたのです。

避難指示解除を
こえて進もう

避難指示解除を待ちかねて、村の自宅で生活を始めた人もあります。農業の再生にチャレンジしている人もあります。今の状況ではまだ帰れないと考える人もあります。転職・進学を経て避難先での定住を選ぶ人もあります。避難指示が解除となり、いよいよ決断する人が多くなると、そうした違いはいつそう鮮明になってくるでしょう。

多様な選択を認め合い、考えの違いを乗り越えていかなければ、村はかつての大らかさを取り戻せないかもしれませぬ。違いを持つ人同士が力を合わせてこそ、障壁の解消や、多様性を活かした村づくりが可能となるでしょう。避難指示が続く長泥地区の抱える課題も忘れてはなりません。

しかしながら、6年ぶりの避難指示解除です。この変化を、よい節目にしていきましよう。までに力強く村づくりを進め、大らかな笑顔の似合う飯館村を、取り戻していきましよう。

交流センター「ふれ愛館」オープン
(平成28年8月)



天皇皇后両陛下ご訪問
(平成25年7月)



未来へ続く道を歩もう





飯舘村に咲く御衣黄(ギョイコウ) 避難して緑色のサクラ=御衣黄の存在を知る。公民館にもあったはずという情報から、みつけました。交流センター駐車場東端にありました。咲くのは5月。緑色から黄色、ピンクと変化します。(花より団子さん 60代)



かえるの卵(ひきがえるの卵) 環境が悪化していく中でもかえるの卵に元気をもらえた。みんなの帰りを迎えてくれる(のりちゃん 60代)



希望 居久根を伐採した杉で建てた縦ログハウス。卒業と米寿の祝いを、子・孫・曾孫が集まって行う。避難生活から希望がみえてきた。(菅野元一さん 60代)



結束と心 平成23年の夏休み。久しぶりに子どもたちが集まりました。お母さん方が一生懸命に企画・準備してくださいました。みんなで飯舘小学校の校歌を合唱しました。楽しい夜でした。(子供たちの笑顔が一番さん 40代)



最後のセリ名簿 大切なものを記録できて良かったです。我が家の先祖からの頑張りを忘れてしまいそうでした。昔があって今があることを感じます。(飯舘牛太郎さん 40代)



避難先で凍み大根を作る 避難した福島市松川町で凍み大根を作る父(88歳)。これが最後の凍み大根となった。(夢見るひと 60代)



支援物資 県外に避難しているときにいただきました。寒く、そして、寂しい時期でしたが、体も心もあたたかくなりました。(人の優しさに感謝!さん 40代)



最優秀賞



避難先でのアート 避難したアパートの2階。子ども達の絵で華やかになりました。どこに住んでも工夫次第で明るくなる、と感じます。(絵は人を助けるさん 40代)

「大切なもの」

撮っていただきました

避難生活で見つけた「大切なもの」写真コンテストにご応募をいただきましたありがとうございます。入賞作品12点を掲載させていただきます。どうぞ味わってください。心がじんわり温かくなります。

※最優秀賞・優秀賞の方には記念品を贈らせていただきます。



優秀賞



藤の花と「ナカ」は仲良し 避難している須賀川には牡丹のほか、こんなにすごい藤棚があります。私がいるから来てみてない!(小林ナカさん 80代)



優秀賞



いつもの通りに 避難先でも毎日畑に通った両親。飯舘に居た時と同じように、2人一緒。(菅野クニさん 60代)



家族 中学生の妹の吹奏楽の県大会に家族で応援に行った帰りの道、いあきの海。父と震災後生まれた妹の後ろ姿。祖母と母とみんなで立ち寄った海の写真です。(かずさん 10代)



福寿草 飯舘へ帰る人に福をよんでいる。(佐藤豊子さん 60代)



紙上展覧会をご観いただきありがとうございました。「大切なもの」って一人ひとりにいろいろあるのだと実感しますね。「大切」を感じる皆さんの心が素敵です。

県道原町川俣線の川俣町から二枚橋地区に入る村の入口と、同県道沿いの八木沢集会所前に、大きな看板がお目見えしました。村内に入る時に見える面には「お帰りなさい 首を長くくして待つたよ」と書かれていて、村民の帰村を歓迎しています。また、村外に出る時に見える面には、飯館牛の顔面アップの写真があり、「行つてらっしゃい 必ず帰つてきてね」と牛のセリフが書かれています。

実はこの看板、3月31日の避難指示解除に先立ち、村が設置したモニタリングポストです。交通量が多い県道の、西と東の村の入口に、リアルタイムの空間線量を表示し、さらには村民の皆さんへのメッセージを発信するため設置しました。

27日に、なごり雪が降る中で行われた除幕式では、菅野村長があいさつに立ち、「1人でも多くの方に戻って来ていただけるよう前向きに努力していく。避難指示解除を堂々と明るくPRすることも、一方では大切だろう」と述べました。

また、31日の避難指示解除日には、新聞各紙に村からのメッセージを掲載してもらいました。全国紙3紙では、これまでの励ましやご支援に対する心からの感謝を表し、避難指示解除がゴールではなくスタートなのだということとを改めて伝えました。県内2紙では、これからも前進と発信を続け、忘れられない、行つてみたい村にしていこうと、ふるさと再興への思いを表しました。

帰還困難区域となっている長泥地区では、避難指示が続きます。復興への道のりも、本当にこれからが本番です。逆境にある時ほど、人は真価が問われるもの。新しい村づくりに果敢に挑戦していく今だからこそ、明るさをもち、感謝を忘れず、飯館村民の底力を発揮していきましょう。

3月27日に二枚橋地区で行われたメッセージ付きモニタリングポストの除幕式。思わぬ雪の中での除幕となりましたが、木幡浩福島復興局長（左から3人目）をはじめ、ご来賓の皆様をお迎えして、無事に行うことができました。





基本方針③ 人と人がつながる

1. 「行政区交付金」 「地域づくり事業」 …… 2,663万円
2. 「自治会支援事業」 …… 1,700万円
「自治会役員・組織運営交付金」 …… 848万円
3. 「新春村民のつどい事業」 …… 700万円
4. タブレット、スマートフォンによる
行政情報提供事業 …… 4,755万円
5. 「きこり運営・整備事業」 …… 9,065万円
6. 帰村費用を助成する「おかえりなさい補助金」
6,000万円



基本方針① 生命(いのち)をまもる

1. 仮設住宅などの健康づくり事業 …… 284万円
2. 「総合健診事業」 …… 4,861万円
3. 「内部被ばく検査事業」 …… 626万円
4. 「放射線相談支援事業」 …… 2,393万円
5. 消防団第1分団機動部のポンプ車整備 …… 2,600万円



平成29年度の 主な事業と予算

今年度の主な事業と
5つの基本施策など
その予算額を復興計画の
に基づき紹介します



基本方針④ 原子力災害をのりこえる

1. 「昇口舗装」 …… 6億1,414万円
2. 「深谷拠点エリア整備事業」 …… 10億4,018万円
3. 「飲料水安全確保対策事業」 …… 3億2,614万円
4. 「村営住宅整備修繕事業」 …… 1億6,489万円
5. 「携帯電話等エリア整備事業」 …… 4,428万円
6. 「農業基盤整備促進事業」 …… 10億98万円
7. 「河川維持事業」 …… 1億3,000万円

基本方針② 子どもたちの未来をつくる

1. 「幼・小・中学校仮設校舎整備」 …… 7,559万円
2. 「被災児童生徒等就学支援事業」 …… 3,997万円
3. スクールバス運行事業 …… 1億5,019万円
4. 「未来への翼事業」 「沖縄までの旅事業」 2,688万円
5. 子育て支援センターの運営事業 …… 1,193万円
6. 学校等再開整備事業 …… 40億127万円
7. スポーツ公園整備事業 …… 23億6,991万円



基本方針⑤ まいでいブランドを再生する

1. 「営農再開支援事業」 …… 4億8,433万円
2. 「被災地域農業復興総合支援事業」 10億3,412万円
3. 「事業所再開支援事業」 …… 3,000万円



浄化槽設置整備事業

今年度予定していた80基は、12月中旬に申請が完了しています。そのうち、新築家屋に係る申請は44件です。

不法投棄ごみの回収

不法投棄ごみの回収状況ですが、秋の一斉回収では137tの実績があり、夏に比べ17t増加しました。

税関係

税の徴収実績は、8月から催告書の発送、10月から税の村外徴収を実施しており、滞納繰越分における国民健康保険税の収納率が34.2%と上昇しました。また、広域農業開発事業負担金等も収納率が77.8%と上昇しました。

また、避難指示解除に向けて、新築家屋や増築家屋、リフォーム等が増加しており、1月31日現在で52世帯、63棟の家屋評価を実施しています。

村民の避難状況

3月1日現在、県内自治体に



昇口舗装の進捗状況

昇口舗装の進捗状況ですが、平成27年度までに184件が実施済みです。

今年度は計画件数200件のうち、完了が71件で、残り129件については、除染工事や、家屋解体工事と重なり、未完了となっています。

避難されている方は、福島市に3625人、伊達市に539人、川俣町に481人、相馬市に375人、南相馬市に389人等となっています。避難指示解除後も相当数の村民が村外に残ることが想定されますので、今後も今以上に一人ひとりの身の振り方に寄り添って、生活支援業務を充実していきます。

放射線に関する相談会

1月11日から、放射線に関する相談業務を開始しました。専門の相談員1名が、社会福祉協議会の生活相談員と共に避難先を訪問して村民の相談に答えています。

また、11月から1月まで「放射線車座集会」を「きこり」を会場に延べ9回実施しています。これは、公益財団法人原子力安全研究協会が開催したもので、約50人が参加し、放射線に関する疑問が寄せられました。

村内産野菜モニタリング検査

村内27か所で栽培した、ホウレンソウ、コマツナ、コカブ、ブロッコリー、キャベツの5品目について、県及び村のモニタリング検査

を行った結果、全ての野菜で放射性物質は検出されませんでした。



営農再開状況

花卉、畜産、水稲農家等10件に対し、原子力被災12市町村農業者支援事業、いわゆる4分の3事業、及び、村単独での5%上乗せ補助により、農業用機械等の導入を図っています。

伊丹沢地区で9月から開始した繁殖肉用牛の飼養実証ですが、2月中旬に繁殖肉用牛の採血、

みらい議会

小学6年生が議員となり「飯館村みらい議会」を開催しました。子どもたちの村を思う気持ちに深く感銘を受けました。



子どもたちの絵本の完成

2月7日に、絵を通して子どもたちに支援をいただいている、柳田邦男先生・いせひでこ先生から絵本の寄贈がありました。この絵本は、小学5・6年生全児童が描いた絵をいせ先生が監修し、それぞれ学年ごとに1冊の本にまとめたものです。

生体の体内放射線量測定等を実施しています。

片付けごみの回収

国からは、全域で避難した自治体の廃棄物処理については、特例により、平成29年度も引き続き回収するとの説明がありました。

蔵平仮設焼却炉は、先行5行政区及び地元蔵平地区内に保管されているものから順に処理が進められています。

また、小宮仮設焼却炉は、3月をもって終了し、29年度に解体・撤去する予定です。

商工労政関係

東京電力の賠償による井戸掘削ですが、本年4月以降、58件の補助申請があり、現在まで、43件が完了しています。

次に、宿泊体験館「きこり」ですが、昨年3月にイオラ等の入浴施設の営業を再開していますが、本年1月末までの利用人数は4878人でした。

現在、食事の提供以外の「きこり」の全面再開に向けて、改修工事を行っており、再オープ

成人式

1月8日、交流センターふれ愛館で、震災後、村で初めての「成人式」を実施しました。式には、新成人70人中61人が出席し、晴れて大人の仲間入りを果たしました。



住民意向調査

結果報告

● 速報版 ●

復興庁ホームページで全体をご覧ください。
「原子力被災自治体における住民意向調査」
<http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-4/ikoucyousa/>

1月に、復興庁・県と共同で実施した「飯舘村住民意向調査」の調査結果（速報版）が、3月7日に公表されました。避難指示解除後の帰村意向などを中心に公表結果の一部をお知らせします。

回答をいただいた世帯は、全体の44.7%。将来的な希望も含み「戻りたいと考えている」世帯は、回答世帯の33.5%で、前年度の32.8%から、0.7%増加しました。

調査対象：世帯の代表者（2,844世帯）
調査時期：平成29年1月4日～18日
調査方法：郵送配布、郵送回収
回答数：1,271世帯（44.7%）

帰還の意向

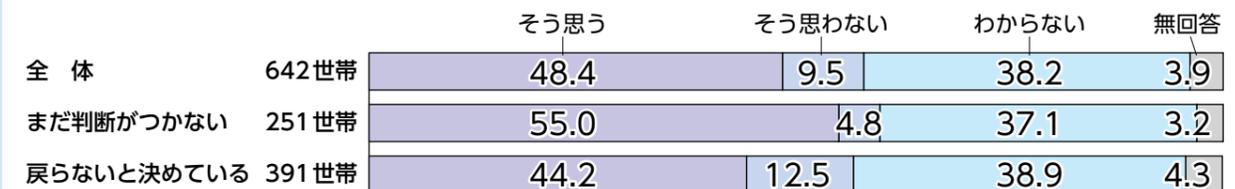
全体 1,271 世帯

※グラフ上の数の単位は%



飯舘村とのつながりを保ちたいか

「まだ判断がつかない」「戻らないと決めている」と回答した642世帯



避難指示解除から飯舘村に戻るまでの期間

「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した426世帯



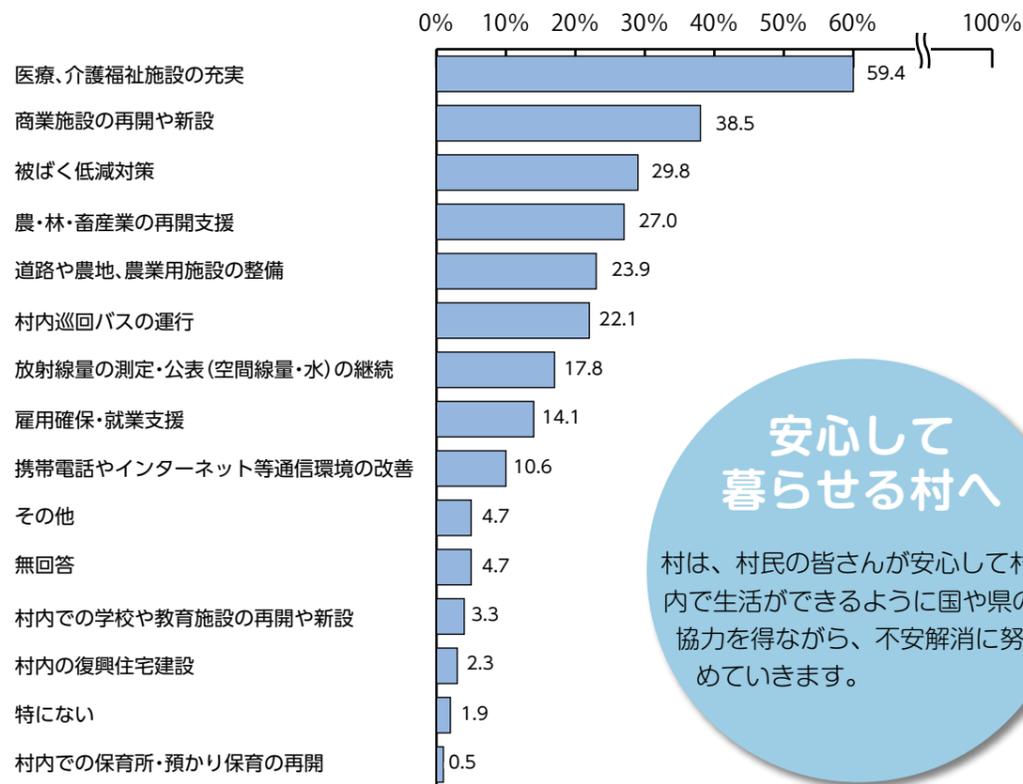
帰還する場合の家族

「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した426世帯



帰還する場合に 希望する行政の支援

「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した426世帯

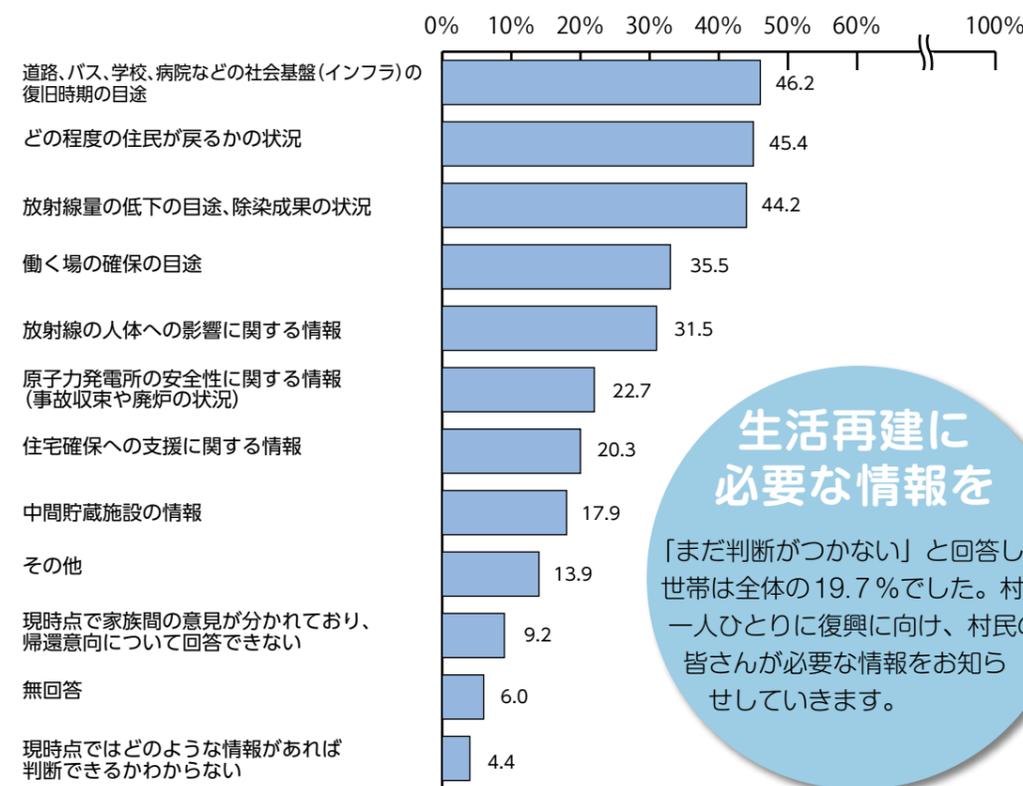


安心して暮らせる村へ

村は、村民の皆さんが安心して村内で生活ができるように国や県の協力を得ながら、不安解消に努めていきます。

帰還を判断する上で 必要な情報

「まだ判断がつかない」と回答した251世帯



生活再建に必要な情報を

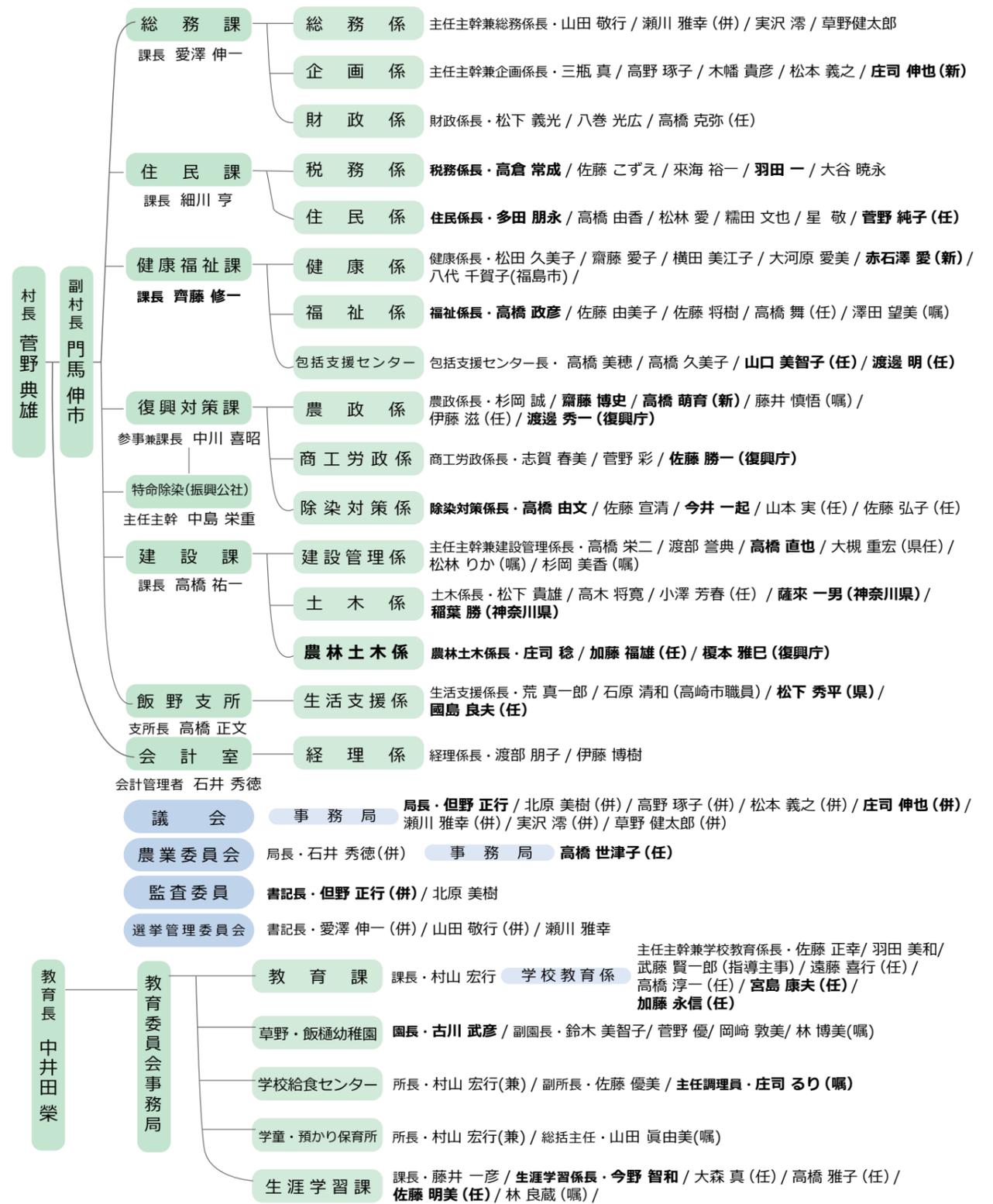
「まだ判断がつかない」と回答した世帯は全体の19.7%でした。村民一人ひとりに復興に向け、村民の皆さんが必要な情報をお知らせしていきます。

飯館村役場 各係連絡先

本 庁	総務課	総務係 ☎ 0244-42-1611	消防・防災、選挙、法令、行政区長会、情報公開等
		企画係 ☎ 0244-42-1613	復興拠点整備、広報・広聴、住民懇談会、統計等
		財政係 ☎ 0244-42-1612	予算・決算、入札、地方交付税、ふるさと納税・義援金等
	住民課	住民係 ☎ 0244-42-1617	戸籍、各証明発行、国民健康保険、後期高齢者医療、ごみ、防犯、浄化槽、畜犬等
		税務係 ☎ 0244-42-1615	地方税の賦課・収納、所得税・住民税の申告相談、各税証明発行等
	建設課	建設管理係 ☎ 0244-42-1624	村営住宅整備・維持管理、簡易水道・農業集落排水施設の維持管理等
		土木係 ☎ 0244-42-1623	道路、橋梁、河川整備・維持管理、建物解体、昇口舗装等
		農林土木係 ☎ 0244-42-1610	農業基盤整備、農林土木施設の整備・維持管理等
	復興対策課	農政係 ☎ 0244-42-1621	農業再開支援、農用地農業基盤の維持管理に関する事業、認定農業者、農振、畜産、鳥獣被害対策、林業、土地改良区等
		商工労政係 ☎ 0244-42-1620	企業支援、就労・雇用支援、観光関係、原発事故賠償等
	除染対策係 ☎ 0244-42-1625	除染推進事業、モニタリング調査除染関係全般等	
会計室	☎ 0244-42-1627	村行政に関する会計業務	
教育課	学校教育係 ☎ 0244-42-1631	幼小中学校、学童保育、預かり保育、スクールバス、学校給食センターの運営等	
農業委員会事務局	☎ 0244-42-1629	農業委員会運営に関すること	
議会事務局	☎ 0244-42-1628	村議会運営に関すること	
飯野支所	生活支援係 ☎ 024-562-4249	仮設住宅・公的宿舍・県備上げ住宅の退去及び施設の維持管理、住民相談窓口、自治会運営等	
交流センター	生涯学習係 ☎ 0244-42-0072	生涯学習事業、青少年事業、文化財保護、読書推進、伝統文化関係等	
いちばん館	健康福祉課	健康係 ☎ 0244-42-1637	健康増進、健診、子育て相談、予防接種等に支援等
		福祉係 ☎ 0244-42-1633	高齢者福祉、介護保険、介護認定、介護予防、保育所、児童手当、子育て支援等
		包括支援センター ☎ 0244-42-1626	高齢者総合相談、高齢者権利擁護相談、介護予防ケアマネジメント等

村の組織と職員の配置

平成 29 年 4 月 1 日付で、職員の人事異動が行われました。平成 29 年度の体制等は次のとおりです。建設課に農林土木係が新設されました。



※太字になっているのが、今回の昇格・異動者です。
 ※紙面の都合上、職名を一部省略しています。
 ※(新)…新採用職員 (嘱)…嘱託職員 (任)…任期付職員 (市町村村名)…派遣職員 (併)…他部署との併任 (兼)…他業務との兼任

話芸を味わい大笑い 交流センターで本格寄席



見事な話芸で会場をわかせた三遊亭兼好師匠

3月18日、交流センター「ふれ愛館」の自主文化事業「いいいて寄席」が、同センターで開催されました。会場には、友人同士や家族連れに混じって、本格落語をじっくり味わおうというお一人様もちらほら。三遊亭兼好師匠らによる「時そば」「蜘蛛駕籠(くもかご)」などの古典落語と、「めおと楽団ジキジキ」のステージを、大笑いして楽しみました。笑いすぎて涙を流す人も続出で、来場者は「来てよかった」「あごがはずれるほど笑った」と満足そうに会場を後にしていました。

企業の復興を後押し 企業立地審議会を開催



企業立地に関する情報を審議し施策に生かします

2月21日、村役場本庁で、飯館村企業立地審議会が開催されました。

企業立地審議会とは、村内に立地する企業に関連する施策を適正・円滑に行っていくための審議を行う機関で、関係機関の代表や村議会議員らが委員を務めています。

この日は、新たに工場を増築する企業の情報などを共有し、かかる村の施策について審議を行いました。また、今後の企業立地施策についても、現状を確認しながら意見を交わしました。

運転終了の小宮仮設焼却炉 思い託し民芸品を製作



小法師となった運転員の背には村の形のリュック

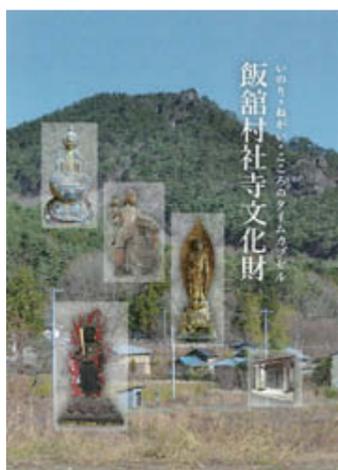
小宮仮設焼却炉は、屋内の片付けごみを約3,000トン焼却し、3月3日に焼却運転を終了しました。この運転終了にあたり、施設管理職員らが、「起き上がり小法師」を製作しました。七転び八起き「起き上がり小法師」に、村の復興への思いを託し、喜多方市の工房に製作を依頼したもので、完成した60個を、村や事業関係者に贈りました。運転を終了した焼却炉は、解体に向けて4月から準備工事を行い、年内を目処に、適正な管理のもと解体撤去されます。

火災が多発する季節を迎え 仮設住宅を「防火訪問」



各戸を訪ねて「火の用心」を呼びかけました

春先は空気が乾燥し、例年火災が多く発生しています。この警戒期に合わせて、3月5日、消防団らによる「防火訪問」が、松川第一応急仮設住宅97戸、松川第二応急仮設住宅68戸で実施されました。防火訪問を行ったのは、消防団、女性消防隊、南相馬消防署飯館分署の合わせて16人です。防火を呼びかけるチラシ、チェックポイントを記した「火の用心トイレットペーパー」を配りながら各戸を訪ね、仮設住宅ならではの注意点などを、具体的にアドバイスしました。



2年をかけて村内の文化財を取材し制作しました

村の文化財を記録した 冊子が完成しました

飯館村文化財記録保存事業実行委員会(佐藤俊雄委員長/草野)制作の冊子が完成しました。タイトルは「いのり・ねがい・こころのタイムカプセル 飯館村社寺文化財」。村内の社寺や祠、それに残る仏像や文化財について、写真で紹介しています。「平成28年度コミュニティ助成事業(宝くじ助成金)」を活用して制作されました。佐藤委員長は「貴重な文化財が予想以上にあると分かり、村の文化を再認識しました」と活動の手応えを話していました。



復興を支える大きな力 飯館村婦人会が総会を開催



避難指示解除をみすえて次年度事業を協議しました

3月12日、飯館村婦人会が、平成28年度の総会を開催しました。婦人会は、長期化した避難の中も、協力して活動を続けてきました。飯野学習センターで行われた総会には菅野村長、大谷村議会議員長、菅野社会福祉協議会長が来賓として出席し、会の功績に感謝を述べました。また、会員は36人が出席し、28年度事業の報告や29年度事業の計画を協議。今後も会として、地域・村民をつなぐ活動を、現状に合わせて、できる範囲で続けていこうと申し合わせました。



成長を見守ってきた生徒達の卒業を心こめて祝います

食を考える会の皆さんが、飯館中学校の3年生に、「卒業祝い菓子」を贈りました。祝い菓子は、会員の皆さんが、贈呈の前日に手作りした、顆粒大豆と白ゴマ入りのクッキーです。

代表の齋藤幸成さんに祝い菓子を手渡した菅野一代会長(比曾)は、「別れがあつて出合いもあるのですよね。皆さんとまた笑顔で会えますように」とはなむけの言葉を贈りました。

「しあわせカフェ川俣」の皆さんが、佐藤洋子さん(二枚橋・須萱)の自宅のキッチンで、イチゴのジャムづくりを楽しみました。佐藤さんがご主人と営む「いたていちごランド」のイチゴは、程よい酸味が、ジャムにぴったりです。ホットケーキを焼き、ヨーグルトも準備して、つくりにたてのジャムを味わうと、そのおいしさに思わず感嘆の声。にぎやかな会話がいつそうはずみました。



ジャムを煮詰めるとキッチンには甘い香りでいっぱい



クマを型どったクッキーにメッセージを添えました

食を考える会



しあわせカフェ川俣



瓶詰めしたジャムはそれぞれの家庭へのお土産です



各行政区に5本のバラを植え、通路は石で飾りました

いいはなプロジェクト



飯館村社会福祉協議会



感謝の言葉を添えて、だんご汁を手渡しました



前月につけた裏山の階段。登ると花壇が見渡せます

東京大学の大学院生らで活動する「いいはなプロジェクト」は、大久保金一さん(小宮)が自宅周辺で取り組む花園づくりに協力しています。メンバーの就職などで活動が最終盤を迎える中、34人が現地を訪れ、2日間をかけて、約4アールの農地に村の形の花壇を完成させました。花壇は水仙で縁取り、電飾の小花で20行政区を描き、バラ約100本を移植しました。

村の社会福祉協議会が、「飯野つるし雛まつり」の会場で、来場者にだんご汁を振る舞いました。事務所の村内移転を前に、6年間お世話になった飯野町の皆さんへ、感謝を伝えたいと実施したものです。地元商店街で材料を購入し、カボチャやキノコをたっぷり入れて、250人分を用意しました。「ありがとう」「ごちそうさま」と声を掛けられ笑顔の交流が続きました。



中学生など村民の作品も毎年展示いただいています

入札結果をお知らせします

入札日／2月10日（単位：円）

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込)	請負業者	完成予定
消防団・女性消防隊・役場消防隊被服等購入	6,295,104	福島消防資材(株)	平成29年3月下旬
道の駅「までい館」建設工事コンビニ内部等設計業務	1,512,000	(株)関・空間設計	平成29年3月下旬
道の駅「までい館」太陽光設備設置設計業務	3,942,000	(株)関・空間設計	平成29年3月下旬
深谷拠点A-3エリア造成工事積算業務	2,160,000	(一財)ふくしま市町村支援機構	平成29年3月下旬
道の駅「までい館」建物附帯外構工事	32,940,000	庄司建設工業(株)	平成29年3月下旬
交通教育専門員及び交通指導員制服購入	989,198	(株)ユニフォームネット	平成29年3月下旬
交通安全施設設置工事	1,058,400	(有)渡建工業	平成29年3月下旬
介護保険システム改修業務	1,857,600	(株)福島県中央計算センター	平成29年3月下旬
臨時福祉給付金(経済対策分)システム改修業務	961,200	(株)福島県中央計算センター	平成29年3月下旬
飯館村社会福祉協議会物品購入	1,452,600	(有)マルショウ事務機	平成29年3月下旬
宿泊体験館きこり消耗品購入	1,382,400	(有)マルショウ事務機	平成29年3月下旬
宿泊体験館きこり宿泊棟用備品購入	6,750,000	(有)マルショウ事務機	平成29年3月下旬
宿泊体験館きこり研修室用備品購入	9,352,800	(有)マルショウ事務機	平成29年3月下旬
宿泊体験館きこり修繕工事(村単分)	4,968,000	(株)古俣工務店 川俣支店	平成29年3月下旬
パークゴルフ場基本計画策定業務	1,836,000	国際航業(株) 福島営業所	平成29年3月下旬
大谷地団地建替敷地造成測量設計業務(開発許可変更申請業務)	5,616,000	(株)船橋コンサルタント	平成29年3月下旬
農業基盤整備促進事業(飯館西部その2)暗渠排水測量設計業務	6,696,000	(有)武藤測量事務所	平成29年3月下旬
農業基盤整備促進事業(飯館西部その2)用排水路測量設計業務	30,240,000	(有)武藤測量事務所	平成29年3月下旬
農業基盤整備促進事業(飯館西部その2)暗渠排水等整備工事	10,454,400	(有)福相建設	平成29年3月下旬
営農再開支援水利施設等保全事業(飯館西部その1)用排水路施設等保全工事	18,468,000	濱田建設工業(株)	平成29年3月下旬

●先月号の入札結果に誤りがありましたので、お詫びと訂正をいたします。工事名「防犯設備(防犯灯)機能回復事業(修繕設計業務)」について、請負業者は「(有)鹿山電気商会」です。関係者の皆さまにはご迷惑をおかけし、大変申し訳ありませんでした。



お知らせ

街路灯の設置が完了しました 復興支援の明かりが灯ります

12月に東北電力福島営業所から村に寄贈された街路灯の設置工事が、2月21日に完了しました。街路灯は、寿命が長く消費電力の少ないLEDライトを使用している、村内各所に全部で38灯設置されました。この寄贈と設置は「明かりを通して復興を支えたい」とする同営業所の支援事業「いたて村おかえりなさいプロジェクト」の一環で、「今後も村の皆さんに寄り添う支援を継続したい」とお話をいただいています。



寒風の中の設置工事(前田地区)

●東北電力からのお願い●

東北電力では、停電事故を防止するための点検と改修を定期的に行っています。その際、電力設備に接近もしくは接触している樹木がある場合は、必要最小限の範囲で枝切りを行います。点検・改修時の敷地内への立ち入り、事故防止のための枝切りに、ご理解とご協力をお願いします。

問 東北電力福島営業所 配電技術サービス課
☎024-522-2276 (平日午前9時～午後4時)

3月の村の動きと主なできごと

- 1日・県立相馬農業高等学校飯館校 卒業式(県立福島明成高等学校校体育館)
- 2日・飯館地域農業再生協議会総会(交流センター「ふれ愛館」)
- 学校運営協議会(飯野支所)
- 3日・5日・第2回いたてっ子交流事業(奈良県「なら100年会館」他)
- 3日・16日・3月議会定例会(村役場本庁議場)
- 8日・仮設住宅・公的宿舎等管理人会議(飯野支所)
- 13日・飯館中学校 卒業式(飯館中学校体育館)
- 17日・草野・飯館幼稚園 終了式(草野・飯館幼稚園ホール)
- 18日・交流センター自主文化事業「いたて寄席」(交流センター「ふれ愛館」)
- 22日・第3回農業委員会定例会(村役場本庁議場)
- 23日・草野・飯館・白石小学校 卒業式(草野・飯館・白石小学校体育館)
- 飯館村土地改良区通常総会(交流センター「ふれ愛館」)
- 24日・村議会 視察研修(東京電力福島第一原子力発電所)
- 定例教育委員会(村役場本庁)
- 27日・メッセージ付モニタリングポスト除幕式(二枚橋地区現地)
- 28日・転出教職員合同離任式(村役場本庁)
- 30日・第3回飯館村除染検証委員会(村役場本庁)
- 31日・避難指示解除(長泥地区を除く村内)
- 避難指示解除記念式典(交流センター「ふれ愛館」)



大久保さんは、四季折々に花に囲まれる「マキバノハナゾノ」をつくるようと、震災前から、農業を営むかたわら自宅周辺に花を植え続けています。

震災の年は、草刈りのため、仮設住宅から1日おきに自宅に通っていた。高齢の母がいて、通うのは一苦労だったが、自宅の部屋で寝転ぶのは気持ちよかった。雨どいを外し、屋根や壁を拭き、測って確かめながら、自宅周りの線量を下げた。軒下の土も削ってきれいな土で覆い、翌年、もう一度削った。

その頃、村内の線量を測っていた菅野宗夫さん(佐須)が、東京大学の溝口勝先生とやって来て、その米づくりの実証に、思いがけず参加することになった。水田を3つに区切って、代掻きや水の流し方を変えながら行う米づくりの実証だった。沈んだ泥や地下水への影響も測定した。

周りの人から「いくらもらっていいんだい」と聞かれたりもした。そんなつもりは全くなかった。宗夫さんに話すと、「そういう人の気持ちも、理解することが大事だよ」と言われた。…そうだなあ、と思った。

それから俺はいろいろ考えて、「東大の先生が、こんな田舎に来ることはない。このできごとを何かに残したい」と考えるようになった。

稲刈りの時に、その考えを話した。「桜の苗を植えたい」と。先生方に負担をかけては意味がないので、自分にやらせてほしい。興味

があれば苗を植える時だけ協力ください。花づくりを通して知り合った全国の友達も協力してくれて、その参加者は120人になった。

母は実証への協力にずっと反発していた。「誰もやったことのないことをやるなんて」。穂ほらみ期になると「とれるものか」と言った。それでいながら田植えの時には「かっこよくしたか」と気にした。

つらかったのは、収穫した米を捨てさせられたことだ。顔で笑って、心で泣いた。それでも、続けた。

一昨年、母が亡くなった。大学の先生や新聞記者、何人もの人が、母のために足を運んでくれた。ありがたく、また誇りにも思えた。

母も、分かってくれただろうか。「マキバノハナゾノ」をつくらうと、ずっと夢見てきた。2年前からは、東京大学の学生たちが、手伝ってくれた。バラを植えてみたいという学生がいたので「飯館花壇」(詳しくはP25)には、たくさん種類のバラを植えてみた。

いろいろな人が花を見に来て、声をかけてくれるようになった。今は福寿草。これから、水仙、モクレン、水芭蕉と、開花が続く。花園づくりの夢を、俺はこれからも見続けようと思う。

心も自分も大切に。

村民の皆さんからの相談に、堀先生がお答えします

おしえてくんちえ 堀先生

復興が進むにつれ、うれしい気持ちと不安な気持ちの両方が出てきています。

相談 堀先生

いよいよ飯館村に帰還した、という方もおられると思います。戻られた方にも、避難を続けている方にも、それぞれの方が重ねて来られた月日に、心から敬意を表します。

帰還は、心にも大きな仕事をしてもらわなければならない事態です。大多数の人にとってはうれしく懐かしい出来事でしょうが、場合によっては「こんなはずでは…」と感じることがあります。そういう気持ちが出るのは自然なことです。どうぞ、一人で抱えてしまうのではなく、早めに信用できる人に話して胸のうちの聞いてもらいましょう。場合によっては、専門家の受診もお勧めです。



精神科医 堀有伸先生
ほりメンタルクリニック院長

「心の健康相談」お問い合わせは 健康福祉課健康係 (いちばん館内) ☎0244-42-1638まで

こころのぽけっと

「マイナス」にくっついてくるもの

脚本家の山田太二さんが、こんなことを書いていました。

新築の小学校校歌の作詞を引き受けた運動会に招待されたことがあった。知り合いもない中で運動会で、大変退屈だった。

午後のプログラム開始の時、急に激しい雨が降ってきて中々やまない。これで運動会は中止だと思っていたら、校長先生が「雨の中だけで最後の種目のリレーだけやろう」と言った。どろどろの運動場の中で、足をすべらして転ぶ子や悔し涙を流しながら一生懸命次の走者にバトンを渡す姿に、保護者も私も大きな感動を覚えてしまった。…と。

マイナスだと思っていたことは、実は豊かなプラスをもたらしているのだと…。この気持ちをセリフにしてみたら「悪いことにはきつといいことがくっついてくるのだよ」だった。…と。

私たちは今、とてつもないマイナスの中にいる中で「いいこと」がくっついてくる「など到底思えません。でも、よく考えてみると屋内のゴミ処理や家屋解体事業さらに昇口舗装等々、「くっついてきている」ものも結構あることが分かります。

不幸な出来事に直面した時、マイナス思考になるのは仕方ない事ですが、その時に「居直りのエネルギー」を出すことによって、「くっついてくるもの」がより多く生まれてくるのかもしれない。いずれにしても、「よりよく生きる」ことについて、村民にそれぞれ、真剣に考えてもらおうしかない。つらさが私には残りますが、一方で、「くっついてくるもの」とてつもなく多かつたなと思っています。

平成29年3月16日 飯館村村長 菅野 典雄



誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
古川 綾乃ちゃん	真司・知恵子	草野
桑折 香澄ちゃん	謙一・雅子	上飯樋
村上 蒼來くん	義光・紫音	上飯樋
大渡 一凛ちゃん	貴行・栄里	草野

すくすくと元気に育ってね



おくやみ

氏名	年齢	行政区
菅野 アキエ	82	二枚橋・須萱
高橋 松夫	76	前田・八和木
今野 トゴ	91	前田・八和木
永井 邦弘	84	関沢
庄司 満義	75	飯樋町
原田 キイ	73	深谷
庄司 辰喜代	82	伊丹沢
佐藤 ミサ子	87	関根・松塚

ご冥福をお祈り申し上げます

(2月21日から3月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

ひとのうごき

平成29年2月28日現在		2月1日～28日までの人口動態	
人口	今月 (前月比)	転入	2人
男	3008人 (-15)	転出	31人
女	3081人 (-18)	出生	6人
世帯数	6089人 (-33)	死亡	10人
	1822戸 (-6)		(住民基本台帳人口)



やまゆり保育所



飯館中学校

フォトストーリー 

旅立ちの日

県立相馬農業高校飯館校 卒業式
飯館中学校 卒業式
草野・飯樋・白石小学校 卒業式
草野・飯樋幼稚園 修了式
やまゆり保育所 修了式

楽しかった思い出を胸に学び舎を巣立つ子ども達をカメラで追いました。どの会場にも、感動と惜別の涙がありました。そして仲間との時間を最後まで心に刻もうとする、子ども達の輝く笑顔もありました。修了・卒業、おめでとうございます。新しい春への旅立ちを、心から応援します。



飯館中学校



相馬農業高校飯館校



草野・飯樋幼稚園



草野・飯樋幼稚園

待ってね私のふるさと

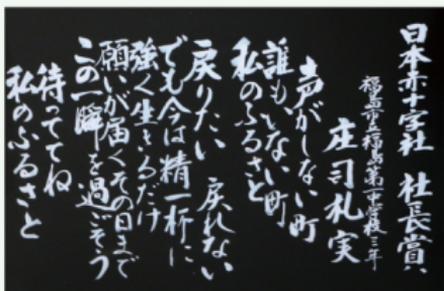
庄司礼実さん
(前田・八木)

4月からは高校生。小さいとこの世話が楽しくて、将来は幼稚園教諭が保育士を目指そうと考えています。「好きなことを夢にしたい」

HOPES
ホープス セカンド
2nd

日本赤十字社福島県支部が毎年作品を募集している「青少年赤十字詩・100文字提案」で、昨年、庄司礼実さんの詩が、最高賞の日本赤十字社社長賞に輝きました。

礼実さんは、震災直後、家族と共に大阪の親戚宅に身を寄せました。その後小学5年生の時に村の小学校に戻り、避難する福島市内の中学校に進学。入学当初は毎日泣きな

日本赤十字社 社長賞
福島県青少年赤十字詩
庄司礼実

がら帰宅していたと、母親の美郷さんは振り返ります。その中学校でも、家族の励ましを受けながら通学を続け、所属したバレー部では部長も務めて、この3月に卒業しました。

詩に書かれた「ふるさと」について礼実さんに聞くと、「私のふるとは飯館です。村の自然の、あのどかな感じが好きなんです」と微笑みましました。走ったり自転車に乗ったり大声を出したり、自由のびのびと過ごせた心地よさを、今も大切に記憶しています。詩の後半に書かれた「願い」とは、「飯館に帰りたい」という礼実さんの願い。「急には無理でも、ちよんとすつ戻るのが増えていく」といって、避難指示が解除となった村を見守ります。

避難による転校という経験ですべて受け止めながら、礼実さんはまっすぐふるさとを語ります。その純粋な思いが、この詩を読む人の胸を打つのでしょうか。

〈編集後記〉

●3月の卒業式取材。大きく巣立つ子どもたちの姿をカメラ越しに見つめました。仮設の学校でも立派な姿を見せてくれた「いたて子」の姿に思わず涙がこぼれ、紹介している。避難先で見つけた大切な「写真コンテスト」応募ありがどうもさびしかったです。大切なものはそれぞれでも、見ている私たちの心も併せて包んでくれました。村民の皆さんが4月からの生活でも、大切なものがひとつ多く見受けられますように。(木嶋)

●何気なく見始めたNHK大河ドラマにはまっています。柴咲コウさん演じる主人公が、逆境に次ぐ逆境にもひるまず挑んでいく姿、許嫁いひるみずけとの悲恋(史実をどうドラマと思われませんが)にキドキ。劇中でのその意味を知った「日々是好日」という言葉も心に染みます。(星)



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。